

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200668		
法人名	社会福祉法人千葉勤労者福祉会		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	〒262-0032 千葉県千葉市花見川区幕張町5-225		
自己評価作成日	平成25年11月12日	評価結果市町村受理日	平成26年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成25年12月5日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、季節の企画や外出を計画している。ギター、押し花など地域のボランティアの方の協力も得ている。</li> <li>・年に1回のバス旅行では、普段ボランティアに来ていただいている方も招待している。</li> <li>・法人全体で夏祭りを開催。毎年、利用者はもちろん、多くのご家族・地域の方にも楽しんでいただいている。</li> <li>・地域の保育所の子もたちとの交流を、月に1回開催している。</li> <li>・事業所内外の研修に積極的に出向き、日々のケアに取り入れている。</li> <li>・協力病院の在宅管理室や訪問看護ステーションとの連携が円滑に取れている。</li> <li>・事業所としてターミナルケアの受け入れを方針化し、学習会なども行っている。</li> <li>・地域の中学校の職場体験に積極的に協力している。</li> </ul>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの理念が職員に浸透しており「その人らしさ」を大切に、できることは見守り、できないことの支援に心がけている。介護計画書の作成についても、全職員に意見を求めるためアンケートを取り、家族にもカンファレンスへの参加を促すなど、関係者の意見を反映させたプランとなっている。2か月毎に開催される運営推進会議も多様な参加者が活発な意見交換を行っており、家族から居室での安全対策に関する具体的な提案なども出されている。ボランティアも多数受け入れており、歌、ギター、押し花など利用者に喜ばれている。また、市の介護支援ボランティア受け入れ、更に多種多様なボランティアが期待できる。管理者は職員の育成にも注力しており、研修の取り組みや個人面談などで一人ひとりのレベルアップを図り、ホームの支援の質の向上につなげている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を各フロア・事務所内・玄関に掲示し、常に意識している。年2回、職員面談にて実践できているか確認している。	「利用者のその人らしさ」「生き方」「したいこと」を尊重し地域に開かれたホームを運営するとの理念が策定されている。年2回管理者による目標管理面接が行われ、理念について再認識する場となっている。全職員が理念に沿った支援に方向性を合わせ、実際のケアに結び付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア、保育園児の訪問、中学生の職場体験などを積極的に受け入れ、交流している。	市街地にあるホームであり、近くの保育園とは毎月の園児の来訪や運動会の見学などで交流がある。また、中学生の職場体験なども受け入れている。歌やギター、押し花など多くのボランティアも来ており利用者の楽しみとなっている。市の介護支援ボランティア受け入れ事業所にも登録しており、更に充実した体制になると思われる	自治会に加入しホームとして自治会行事に参加することや、自治会長を運営推進会議のメンバーにすることなども今後の課題と思われる。また、近隣住民との交流を深め、災害時に協力が得られる関係づくりも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に向け、介護についての話し合いの場を設けたり、日々の介護実践について事例を通し発表している。また、体験研修として地域の中学生の実習を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、必ず開催している。家族・民生委員・あんしんケアセンター職員・千葉市介護相談員・訪問看護師・地域の保育所長が参加し、積極的な意見交換や地域の情報交換ができています。	運営推進会議が多くの家族と多様な参加者で開催され、職員の取り組みや懸案事項について活発な意見交換が行われている。とくに、「おっとハット」(ヒヤリハット)の対策では家族から具体的な提案が出されている。議事録は欠席したメンバーにも送付される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長が窓口となり、市との連携に取り組んでいる。	地域包括支援センター職員、介護相談員には運営推進会議でホームの取り組みについて伝えている。利用者のことで、市の担当者と話し合うなど協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の年間研修に入っており、全職員で学ぶ機会としている。また、市主催の研修に参加している。	身体拘束に関しては研修計画に組み込まれ、全職員が行為を理解している。玄関も施錠せず出入りは自由であり、外出した利用者は無理に連れ戻さず職員が付き添うことにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の年間研修に入っており、全職員で学ぶ機会としている。また、職員同士、そのような状況にならないよう、声を掛け合っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内の年間研修に入っており、全職員で学んでいる。数人の利用者が活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長が対応し理解と納得に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や第三者評価等で家族の意見を聞き、反映している。	利用者の要望などは日々のケアのなかでを聴くよう努め、家族の意見は面会時やカンファレンス、運営推進会議で聴き、ホームの運営に反映させている。転倒防止のセンサーの設置やホームページに行事の写真を載せてはどうかなど、具体的な意見が家族から出されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個人面談など、意見や提案を聞く機会があり、運営に反映させている。	日々の業務中、職員会議や年2回の個人面談などで職員の意見を聴いている。利用者の薬の責任者を置くこと、手すりの設置などの風呂場の改修は職員と管理者が話し合い、実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回個人面談を実施し、それぞれの目標に応じたサポート、個々の悩み事等を聞くなどしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に出向き、個々の成長に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修を通して同業者と交流できる場を設け、サービスの質の向上に努めている。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	とくに初期段階では、本人と密なコミュニケーションをとるよう意識している。生活歴なども重視している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しかけやすく、相談しやすい関係づくりに努めている。ご家族が不安に思っていることについては、相互が納得できるまで話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の希望をもとに、全職員からの意見を集約し、ケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力を見極め、家事作業などを通して、共同生活を意識した関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議や面会時に現状を報告・共有し、家族の協力も得ながら本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢のため外に出る機会が減っているが、友人の面会や、自宅へ帰る機会を作りたい。	知人の来訪は少なくなっているが、家族が孫やひ孫と訪ねてくる。また、家族とのお墓参りやお正月の一時帰宅の支援を行っている。電話の取次ぎや手紙の支援も行い、今年の正月は全員が年賀状を出すことを目標としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性に考慮して、席の配置をしている。また、他フロアーに新聞を届けたり、お茶会を設けるなど、かかわりをもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ビニール袋や清拭布などを寄付してくれている。大きな行事のときは、声をかけるとボランティアでしてくれる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話・観察・生活歴の把握・家族の意見などの情報から、暮らし方や嗜好品など、希望に添う様努めている。	利用者の思いや意向は年々変化するが、日々の関わりのなかで真意を聴き取ったり、家族の意見なども参考にして把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各フロア・事務所に個別ファイルを設置。本人・家族・関係機関からの情報を集約している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録で情報を共有し、カンファレンスを通して見極めをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限り、ご本人・ご家族の意見を取り入れている。また、全職員からの意見を基に計画作成をしている。	利用者の担当職員が中心になり、全職員からアンケート形式で収集した意見や業務日誌などの記録をもとにカンファレンスを行い、介護計画を作成している。また、見直しは3か月に1度行っている。カンファレンスには家族にも参加を呼びかけ、出席が難しい家族には電話などで意見を聴いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録に記し、職員間で情報を共有している。その情報を元に日々のケアを行い、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険外であっても、希望や必要に応じて、柔軟にサービスを取り入れている。(訪問リハビリ、訪問理容、ヘルパー利用等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌や押し花のボランティアを受け入れ、その催しに参加し、本人が楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者・家族が往診を希望され、契約している。医療者と事業所が常に相談できる関係にある。	月2回の訪問診療と、利用者によっては週1回の訪問看護が入っている。かかりつけ医への受診は家族対応が基本であるが、事情によっては職員が支援する。人手が足りない時の対応をどうするか、様々な方法を模索中である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師、訪問看護ステーションの看護師のいずれも、些細な事から相談できる。看護職の助言によって、介護職も安心して対応に臨んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時・退院前など、病状説明・カンファレンスに同席し、今後の方向性を検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の説明に加え、終末期を迎えた際には、本人の希望を中心に家族と多職種でカンファレンスを行っている。家族の希望に応じて、その都度説明をしている。	看取りは施設の方針であり、ターミナルケアの職員研修も実施している。終末期の指針も策定され、家族にはその都度説明している。終末期には家族を中心に多職種でカンファレンスを行い、本人・家族の希望を尊重した支援を行っている。なお、去年は3人の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内年間研修として、毎年繰り返している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内年間研修として、避難誘導・経路・連絡の方法を毎年繰り返し確認している。また、年に一回の避難訓練を、地域の消防署の指導の下実施している。	ホームに隣接している地区の消防署立ち合いで避難訓練を実施している。併設デイサービスとは経路誘導等の協力体制もできているほか、飲料水や食料など4日分の備蓄もある。また、災害時の連絡や誘導などを勉強会で確認している。	様々な場面を想定した訓練、特に夜間を想定した避難訓練の実施が望まれる。また、近隣住民の協力が得られるよう、地域への働きかけも期待される。

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	そのときの状態・状況・感情に合わせ、一人の人間・人生の先達としてかかわっている。身体介護の際等、プライバシーに配慮している。	利用者の名前の呼び方は人格を尊重しつつ他人行儀を避けるなど、利用者ひとり一人に合った対応に心がけている。入浴、排泄等でのプライバシーの配慮は日常のケアでは常としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの言葉・表情に耳目を傾けている。衣類や飲み物など、2~3種類の選択肢の中から選べる工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	急がせたり、介護者主体にならない様気をつけている。本人の希望が表現できない場合、提案し、希望を伺っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の洋服選びは基本的に本人に決めてもらっている。本人が迷っている場合には助言などの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・食事・片付けにおいては、利用者と職員が協働している。出来る事を把握し、危険の無い様、取り組んでいる。	食事は外部の業者を頼んでいるが、昼と夜は副菜を中心に独自に工夫した食事を提供している。また、「給食委員会」が設置されており、職員からメニューなどについて意見を聴いている。利用者の希望は寿司などの外食やおやつに反映する事が多い。利用者と職員と一緒に準備や片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全利用者の食事量を把握している。必要に応じて水分チェック表も活用し、必要量の摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合わせた介助方法を行っている。歯間ブラシなどを使用し、丁寧にしている。必要に応じて、訪問歯科を要請している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、その方のリズムに合わせた対応をしている。	排泄チェック表を基本にトイレ誘導をしている。誘導してもタイミングが合わない場合は無理強いはしない。便秘などについては、水分量や食事の内容に配慮して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取が少ない方への声かけ、排便を促す食事の工夫をしている。排便が見られない(1日量100gを目安)場合の内服対応など、看護師と相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に3日に1度、入浴の声かけをしている。入りたくない場合は無理にはすすめず、入りたくなる様な提案・方法を試みている。	床の滑り止めや手すりの設置などで安全な入浴支援ができるようにしている。入浴を拒むことがある場合は、好きな音楽をかけたリ、言葉かけで工夫をしている。また、状況に応じてシャワー浴と足湯での支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況、日中の活動量などの情報を共有し、その場に応じた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の情報提供書を常に確認出来る様、ファイルされている。症状の変化にも、全職員が敏感に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った気分転換を模索し、提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お一人で外出されようとした場合も、職員同士が声を掛け合い、見守り・付き添いをしていいる。ご家族やボランティアの方の協力も得て、バスハイクや外食も行っている。	天気が良い日にはホームの周りなどで、外気に触れる機会を作っている。また、ばら園、水族館、外食など、家族やボランティアの協力も得て外出している。コンビニへの買い物や職員の所用と一緒に出かける利用者もいる。	

【評価機関】



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で財布を管理している方もいる。そのほかの方は預かり金として事務所保管しているが、買い物時は本人の希望を伺い、購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方もいる。本人の希望に応じて、ご家族とお話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着ける空間であるように、整理整頓、室温や光にも配慮している。季節の花を置いたり、年中行事の装飾をしている。	台所からは食事の準備をする匂いがしてくる。リビングの大きく開いた窓は採光が十分で、コーナーのソファで昼寝をしたり、中央のテーブルで年賀状作りなど、利用者は思い思いに過ごす様子が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席とは別に、ゆっくりとテレビ観賞や話ができる様にテレビ前にソファを配置するなど、居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を自宅より持って来てもらっている。安全にも配慮してレイアウトしている。	一人ひとり仏壇、タンス、本など大事な物を持ち込み自由に配置している。車椅子利用者については安全で動きやすいスペースを確保している。また、家族の写真を貼るなど、安心して過ごせるような居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや各居室の表示、照明など、それぞれの方の動線・特徴に配慮して、レイアウトしている。		

【評価機関】